

## &lt; 運営推進会議における評価\_様式例 &gt; ※公表用

## 【事業所概要】

法人名	株式会社ルピナス新潟	事業所名	ケアステーションるぴなす
所在地	(〒950-0926) 新潟市中央区高志2丁目20番10号		

## 【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・居心地の良さと居場所の良さを提供する。
- ・居心地の良さと家族、居場所の良さは家～ご家族の代わりに居心地の良さと居場所の良さを提供する。
- ・一人暮らしでも、高齢世帯でも、認知症でも、がん終末期でも、住み慣れた地域で最期を生きることができる。
- ・そのためには、医療、介護、福祉、行政、住民と連携をはかり、ご利用者、仲間そして自らを大切にします。

## 【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2025 年 2 月 23 日	従業者等自己評価 実施人数	( 13 ) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

## 【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2025 年 3 月 24 日	出席人数 (合計)	( 7 ) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 ( 4 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 ( ___ 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 ( 1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 ( 2 人) <input type="checkbox"/> 利用者 ( ___ 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 ( ___ 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 ( ___ 人) <input type="checkbox"/> その他 ( ___ 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p>計画に沿った内外研修と定期的な伝達研修を継続し、問題があれば見直しを行う。</p> <p>職員個々で目標を設定し取り組み自己評価を行うことを継続し、更なる改善を行う。</p> <p>ご利用者と職員の安全確保について日頃より配慮し、注意点を話し合い喚起していく。</p> <p>災害対策について話し合い、訓練していく。</p>	<p>年間計画を立て、内外研修を行った。 他職員への伝達研修の時間を定期で設定し全員が実施した。</p> <p>目標管理シートを使用し、半年ごとに自身で目標を設定し取り組み、自己評価を行った。</p> <p>事故報告・ヒヤリハットについて早急に対策を検討し、全員で情報共有した。</p> <p>環境整備や介助方法についての注意点を話し合い、適切かどうか検討し、無理がないか気をつけながら業務にあたった。</p> <p>定期的に火災避難訓練を行った。 BCP 研修・訓練を行った。</p>	<p>計画に沿った内外研修と定期的な伝達研修が実施できている。</p> <p>自身で目標を考え取り組み、評価し、達成度合いを確認した。</p> <p>全員で情報共有することで、職員の意識向上に役立った。</p> <p>職員が一人での介助に不安がある時に言いやすい、また他職員が気に掛ける環境が出来ており、無理せず介助できている。</p> <p>継続して火災避難訓練を実施した。 災害時の対応についての話し合い・決め事は足りていない。</p>

<p>Ⅱ. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p>	<p>ご利用者の状況変化に応じ、利用方法や支援方法は早期に検討し対応する。 状況変化が落ち着いた時に、計画書を変更する。</p>	<p>状況変化に応じ早期に検討・対応できている。 変化が落ち着いた時には計画書を変更している。</p>	<p>状況の変化が著しいと計画書の変更が追いつかないが、その都度、利用方法や介助方法は検討し変更されている。 最新情報の共有・理解が必要となる。</p>
	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<p>多機関・多職種と連携し、希望の在宅生活を送れるよう支援する。</p>	<p>希望の在宅生活を送れるよう、様々な人がそれぞれの立場で得た情報を共有しすり合わせ、支援している。</p>	<p>連携の継続により、ご利用者の在宅生活を支えていく。 連携の拡大を考え続けることも必要となる。</p>
	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)</p>	<p>地域との情報共有, 協力, 交流を行い、住み慣れた地域で希望する生活を送れるよう支援する。</p>	<p>地域の方と一緒にるびなす祭りを実施し、楽しむことができた。  自治会長や地域の方によるるびなすの避難訓練に参加協力いただいた。  「つながりの場づくり」としてこども食堂を実施し、地域の方と交流した。</p>	<p>るびなす祭りでは多くの地域の方が来られ、良い交流ができた。  今後も協力いただきながら継続していきたい。  何度も参加して下さる方もおり、少しずつ定着してきている。継続し、地域の方の力を借りながら様々なかたちでの「つながりの場」に育てたい。</p>

<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)</p>	<p>適切な接遇を心掛け、振り返りを行う。</p> <p>外出行事, 散歩, ドライブなど、天気の良い日は積極的に外に出る。</p> <p>今まで関わりながら汲み取った思いや希望の情報を個別にまとめ、話し合う。</p> <p>希望の汲み取りが難しいご利用者は、センター方式やひもときシートを利用しみんなで考える。ケースカンファレンスにて話し合う。</p>	<p>接遇委員会が主となり取り組み、振り返りや学習ができています。</p> <p>気候の良いときに外出できているが、職員の不足もあり日常的に気軽に出かけることは難しくなっている。</p> <p>小さなことでも思いや希望を汲み取り、できる範囲でかなえられるようにしている。</p> <p>ひもときシートを利用した話し合いを行った。</p>	<p>接遇について個々が考え、行動することができた。</p> <p>天候をみて少しの時間でも季節を感じてもらえるように職員が協力して取り組んだ。</p> <p>思いや希望の情報をまとめる話し合いは足りていない。</p> <p>ひもときシートを利用した話し合いを行うことで、その方について様々な目線で深く考える良いきっかけとなった。今後も継続していく。</p>
---------------------------------	---	--	---

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に沿った内外研修と定期的な伝達研修を実施した。</li> <li>・ご利用者と職員の安全確保について、全員で情報共有することで職員の意識向上につながった。</li> <li>・継続して避難訓練を実施し、BCP 研修・訓練を実施した。災害時の対応についての話し合い・決め事は足りていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修を継続し、学びを業務に落とし込む方法を考え活かす。</li> <li>・ご利用者と職員の安全確保について、継続して日頃より配慮し、注意点を話し合い喚起していく。</li> <li>・災害時の対応について、話し合い・訓練を重ねる。</li> </ul>
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職，看護職，関係機関が連携し、在宅での生活を支えることができる。</li> <li>・ご利用者の状況変化に応じ、利用方法や支援方法を早期に検討し柔軟な対応に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者の状況変化に応じ、利用方法や支援方法は早期に検討し対応する。状況が落ち着いた時に、計画書を変更する。</li> <li>・最新情報をもれなく理解・共有する方法を検討する。</li> </ul>
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望の在宅生活が送れるよう、様々な人がそれぞれの立場で得た情報を共有しすり合わせ、支援している。</li> <li>・休日夜間を含め、管理者を通じ医療職，医療機関へ繋ぎ、急変時に対応している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多機関・多職種と連携し、希望の在宅生活が送れるよう支援する。</li> <li>・さらに連携を拡大する方法を考える。</li> </ul>
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・るびなす祭り、「つながりの場づくり」としてのこども食堂、避難訓練など、地域との交流、協力ができた。</li> <li>・地域関係者との情報共有，相談等，随時行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との交流，協力，情報共有を行い、住み慣れた地域で希望する生活が送れるよう支援する。</li> </ul>
III. 結果評価 (評価項目 42～44)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・介護で連携し、意向に沿い、自宅でも事業所でも看取りができるよう支援している。</li> <li>・日頃から、思いや希望を汲み取るよう心掛けた。ひもときシートを利用した話し合いを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して、思いや希望を汲み取るよう心掛ける。希望の汲み取りが難しいご利用者は、センター方式やひもときシートを利用して全員で考え話し合う。</li> </ul>

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	おおよそ でき てい る	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
<b>I 事業運営の評価 [適切な事業運営]</b>							
<b>(1) 理念等の明確化</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」</li> <li>✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>
		[具体的な状況・取組内容]					
		独自の理念を掲げ、いつでも見ることができるよう事業所内に掲示している。					
		[具体的な状況・取組内容]					
		サービスの特徴、理念を理解し、住み慣れた地域で暮らせるよう支援している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
<b>(2) 人材の育成</b>							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している			○			<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</li> <li>✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」</li> <li>✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</li> </ul>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>職員へ定期的にヒアリングと、必要に応じて話し合いがされている。中長期的な育成計画は作成していない。</p>					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します</li> </ul>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>年間で計画し、内外研修を受けた。定期の伝達研修も行った。</p>					



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備</b>							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます</li> </ul>
<b>(4) 情報提供・共有のための基盤整備</b>							
<b>① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備</b>							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(5) 安全管理の徹底</b>							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		○				<p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b> ヒヤリハットや事故があった際は報告書にて情報共有、早急に対応策を検討し実施、ミーティングで検討や確認をしている。 利用者の安全が保たれ、介助する職員も安全に働けるよう、環境や介助方法をその都度検討した。</p>					
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている			○			<p>✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b> 災害時の対応や緊急時の連絡方法は目に付く所に掲示している。 地域の方の協力を得て、消防訓練を行っている。 災害時の対応については具体的な検討がまだ足りていない。 災害時のサービス提供継続についてもさらに検討が必要。</p>				<p>消防訓練の積み重ねを行い、より適切な対応方法等の検討を行っていきましょう。</p> <p>マニュアル化し、修正しながら進めていく。</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>II サービス提供等の評価</b>							
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>							
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します</li> <li>✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります</li> </ul>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>個々の暮らし方や、介護者の状況に合わせて、柔軟にサービスを提供している。予定外の泊り利用、送迎時間の変更、緊急時の訪問・通院に対応している。また、電話や訪問により、自宅でも安心して生活できるよう支援している。</p>					
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます</li> </ul>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>各記録や口頭で、情報共有されている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○				<p>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>利用者・家族の意向に沿って、目標の達成に向けた計画を個別に作成している。</p>					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○				<p>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>心身機能を維持・向上し、希望する生活が続けられるよう、ご本人ができる事は続けていけるような計画と支援を心掛けている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です</li> </ul>
<b>(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践</b>							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</li> <li>✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です</li> </ul>
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です</li> </ul>
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>② 看護職から介護職への情報提供および提案</b>							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</li> <li>✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</li> </ul>
<b>(4)利用者等との情報及び意識の共有</b>							
<b>① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供</b>							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u>  計画の内容や生活での留意点を説明し、理解を得るよう努めている。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u>  医療職より適宜説明し、理解を得るようになっている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○				✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u>  希望や意向をできるだけ把握し、計画に反映しサービス提供するよう努めている。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる		○				✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u>  できるだけ在宅生活を送れるよう、状況に応じて相談・検討し支援している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	おおよそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	○				主治医や訪問看護の職員の皆様より適切な説明や指導が行えていると思います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します</li> <li>✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」</li> </ul>
<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>適切な時期に主治医より現況や今後の予測の説明があり、ご利用者・ご家族の意向を踏まえ方針を話し合い、内容は記録により情報共有している。</p>							
<b>2. 多機関・多職種との連携</b>							
<b>(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供</b>							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	○				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</li> </ul>	
<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>病院・施設等と、電話、書面、面談、退院前カンファレンスにより情報共有し、円滑に希望の在宅生活へ移行できるよう連携し支援している。</p>							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足	
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い			
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有								
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○			<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>緊急時の連絡先と報告事項を掲示し、管理者を通し、医師，看護師にいつでも相談できる体制がある。</p>	<p>社内・社外共に緊急時の連絡体制が整えられておりすばらしいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</li> <li>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</li> </ul>
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築								
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		○			<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>休日夜間を含め、いつでも対応できる体制があり、管理者を通して医療職，医療機関へ繋げている。</p>	<p>社内・社外共に緊急時の連絡体制が整えられておりすばらしいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(2) 多職種との連携体制の構築</b>							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	○				<p>情報の共有化を図る。</p> <p>利用状況や地域の現状が分かり、自治会でも共有し、理解し合っている。</p> <p>定期的開催され事業所の事だけでなく地域の現状や連携についても検討されてすばらしいと思います。</p>	<p>✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します</p> <p>✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」</p> <p>✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です</p>
<b>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</b>							
<b>(1) 地域への積極的な情報発信及び提案</b>							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	○				<p>✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている			○		チラシの工夫や、自治会としてももう少しアピールをしていきたい。 町内の子どもも年々少なくなり盛り上がり欠けている。もう少し工夫していきたい。  自治会や民生委員と協力し、広報活動を推進できていると思います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です</li> <li>✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。</li> <li>✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます</li> </ul>
<b>(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください</li> <li>✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている				○		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>たん吸引が常時できる体制はない為、受け入れは難しい。必要な場合は、吸引以外にできる方法でケアしている。</p>					
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている				○		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>受け入れている。相談があった時には支援できるかどうか、体制を検討したい。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	○				<p>運営推進会議で事例の報告をいただき、適切な看取り対応をされていると思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>ご本人・ご家族の意向に沿って、医療・介護で連携し、自宅でも事業所でも看取りができるよう支援している。</p>					
<b>(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画</b>							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます</li> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」</li> </ul>	
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>職員全員が研修で学ぶ機会を設けている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます</li> <li>✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」</li> </ul>
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている			○			<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている			○		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</li> <li>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</li> </ul>	
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>ご家族へは介護方法の相談や助言・提案を行っている。近隣の方に見守り等、協力いただく場合もある。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
<b>Ⅲ 結果評価</b>				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者について、達成されている</li> <li>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</li> <li>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</li> <li>4. 利用者の1/3には満たない</li> </ol> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u>            大半の利用者様は目標達成できていると思うが、達成度合いは個々によって異なる。</p>		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者について、達成されている</li> <li>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</li> <li>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</li> <li>4. 利用者の1/3には満たない</li> </ol> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u>            医療と介護が連携し、医療が必要になっても安心して在宅での療養生活が継続できるよう支援している。</p>		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</li> <li>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</li> <li>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</li> <li>4. 利用者の1/3には満たない</li> <li>5. 看取りの希望者はいない</li> </ol> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>ご本人・ご家族の意向に応じ、自宅でも事業所でも安心して看取りができるよう、医療と介護が連携し支援している。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</li> <li>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</li> <li>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</li> </ul>